

歴史探訪

クラブ!

其の 127

History Inquiry Club

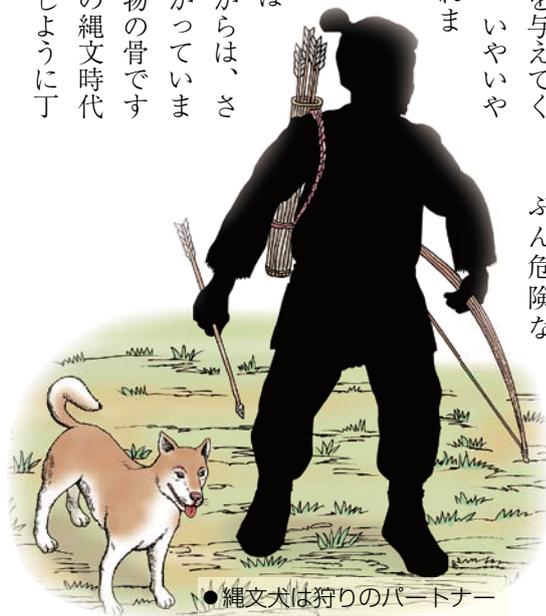


文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

犬と縄文人

私たちの生活にいやしを与えてくれるペット。家族の一員、いやいやそれ以上の存在かもしれません。

さて、日本では人間とペットとの関係は、縄文時代にまでさかのぼります。縄文時代の貝塚からは、さまざまな動物の骨が見つかっています。多くは食べられた動物の骨ですが、すでに9000年前の縄文時代には、犬の骨は人間と同じように丁寧



●縄文犬は狩りのパートナー

に葬られていました。人間の葬られた場所と近いことは、犬がいかに生前にペットとして大切にされていたかがわかります。

家族には、子どもも大人も生活するためにそれぞれ役割があり、そしてお互いを信頼します。だからこそ家族の一員といえるのです。それでは縄文時代の犬はどうでしょうか。彼らには、危険を知らせるための番や狩のお供としての役割がありました。お供といっても、弓矢で撃たれ暴れるイノシシやシカを追い回すのですから、危険の上にあります。縄文時代の犬は骨折したり歯が折れていたりするケースが多く、ずいぶん危険な



▲伊川津貝塚から見つかった葬られた犬

仕事もこなしてきたようです。

平成20～22年に行われた伊川津貝塚の発掘調査では、計22体の葬られた犬が見つかりました。この数は同じ場所で見つかった縄文人のお墓が20だったことを考えると、多いことがよくわかります。これまでの吉胡・保美貝塚の調査でも、こんなに多くはないので、この犬の多さは異常な気がします。伊川津貝塚の人たちは、ほかの貝塚の人たちより、犬に囲まれて暮らしていたことは間違いないのです。厳しい縄文時代に、犬と仲良く生活を共にする様子は、実に微笑ましいと思いませんか。

縄文犬は、肩までの高さが30cm程度の小型犬でした。自分の10倍もあるイノシシなどに勇敢に立ち向かっていったのは、本能もさることなが

ら、人間と固い絆で結ばれていたからに違いありません。

現在、縄文犬に最も近いとされる柴犬でも、顔や体もかわいらしく丸々と太ったものが多いのですが、縄文犬は筋肉が発達し引き締まった体をしていました。また、顔も額から鼻までが、すらつとしていました。これは咀嚼機能が発達していたためだといわれています。そういった意味では、現在の犬も人間と同じように体格的に退化もしているわけです。

人間も含め、ペットにとって、縄文時代かそれとも現在のくらしが幸せなのか考えさせられました。

(増山)

今月の「表紙」

▼夕陽の光りの帯が波打ち際にのびる。そこにサーファーのシルエッターを覗いている時間は、胸が高鳴る瞬間です。一度しかない風景との出会い。これからも大切にカメラに収めていきたいです。(〇)

【表紙の写真】太平洋ロングビーチの夕暮れ